

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)

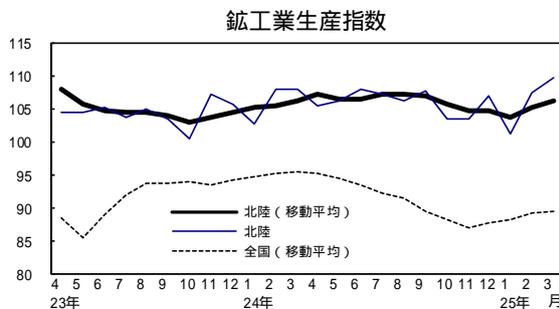
前回調査からの主要変更点

	前回(平成25年2月)	今回(平成25年5月)	
景況判断	下げ止まりつつある	緩やかに持ち直し	
鉱工業生産	おおむね横ばい	持ち直し	
個人消費	底堅く推移	持ち直し	
住宅建設	増加	大幅に増加	
雇用情勢	弱含み	改善の動き	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

1～3月期には、一般機械は、海外向けの金属工作機械が低調だったこと等から減少した。電子部品・デバイスは、スマートフォン向け電子部品が12月の反動で減少したこと等から減少した。化学は、医薬品が引き続き好調であったこと等から増加した。金属製品は、ビル向けのアルミサッシが低調であったこと等から減少した。繊維は、高付加価値衣料の受注が回復したこと等から増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

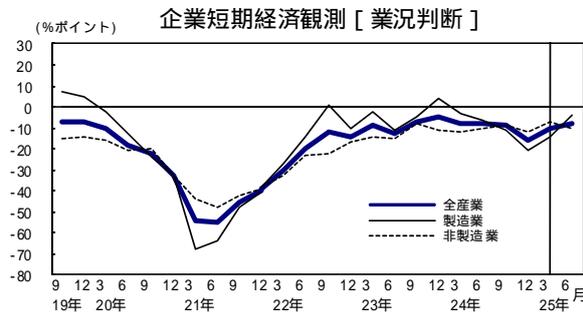
	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
一般機械	16.2	7.6	1.1	1.6	4.4	3.9
電子部品・デバイス	15.8	1.4	0.1	6.4	2.3	4.3
化学	14.5	1.9	0.8	12.7	7.4	6.5
金属製品	9.2	2.7	3.4	7.5	2.4	4.0
繊維	8.5	1.4	0.7	1.6	4.1	1.6
鉱工業	100.0	2.3	1.5	5.4	6.2	2.1

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は後方3か月移動平均。

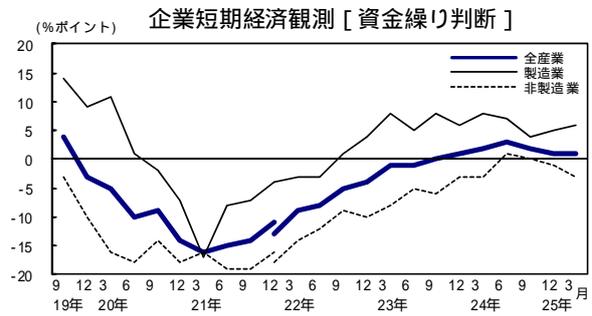
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 1～3月期、3月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

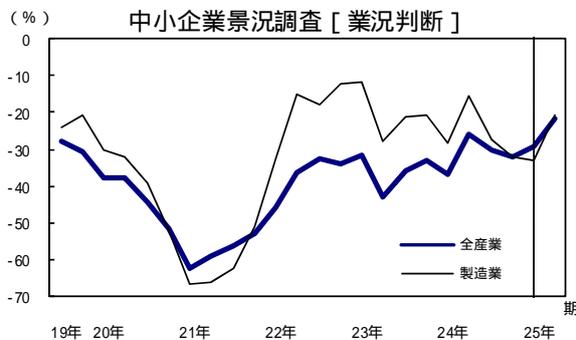
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年6月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。

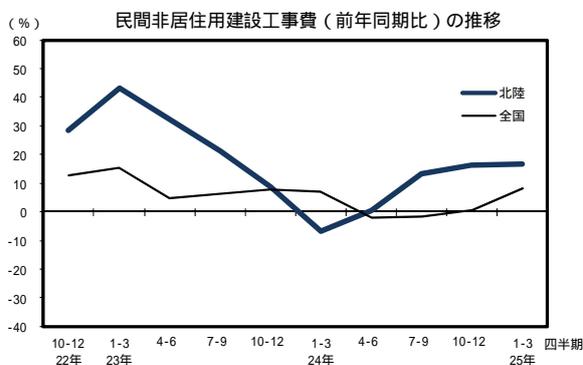


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「客の方で、小売業関係が久々であるが来客数が増えてきており、割と価格の高い様々な電化製品関係や車関係も動きが活発になってきているようであり、消費の方が徐々に回復していることが実感できる(税理士)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	24年度実績見込み	25年度計画
全産業	9.8(1.7)	0.4
製造業	9.2(3.0)	1.4
非製造業	11.9(2.9)	6.4

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比1.2%減、2月は同1.9%増、3月は同0.3%減となった。

大型小売店販売額

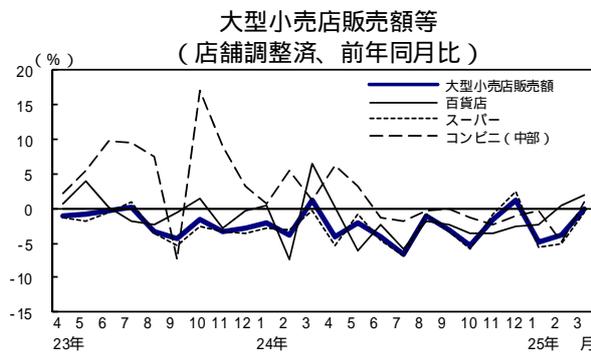
百貨店は、1月は、雪が多かったために来客数が減少したこと等から前年を下回った。2月は、高級ブランド品の値上げ前の駆け込み等により前年を上回った。3月も引き続き高級ブランド品の値上げ前の駆け込みがあったことや高額品の売上が好調だったこと等から前年を上回った。

スーパーは、雪が多かったことや、他業態との価格競争の影響を受け、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (4月) [家計動向関連 (現状)]

北陸地域の家計動向関連DIは、57.3となり前月より1.2ポイント低下した。

「来客数は多いが、販売につながらない。原因としては、例年の新商品発表時期が近づいているための買い控え、また既に購入している客が多いと思われる (通信会社)」など、「悪くなっている」とする回答が増加した。

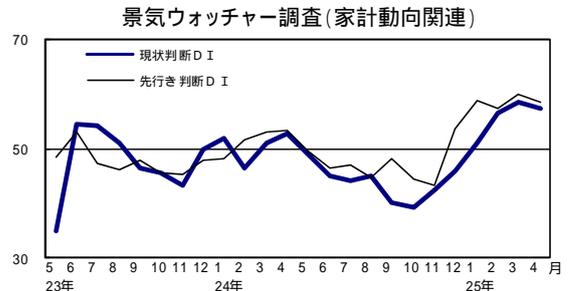
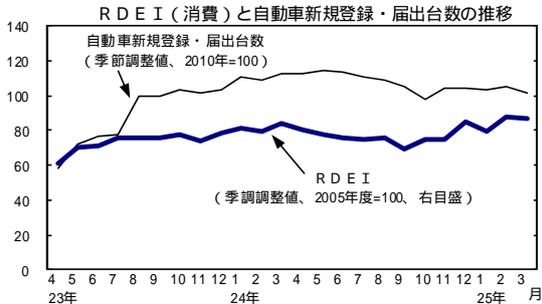


	25年1-3月	25年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	1.6	1.2	1.9	0.3
大型小売店(*2)	3.0	4.9	3.9	0.0
百貨店(*2)	0.1	2.4	0.4	1.9
スーパー(*2)	3.8	5.5	5.0	0.6
コンビニ(*2)	1.3	0.3	4.9	1.0
乗用車(*3)	7.5	3.5	4.1	10.8
(季節調整値)(*3)	1.3	0.8	1.4	3.5

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整済、前年同期(月)比 (%)、コンビニは中部

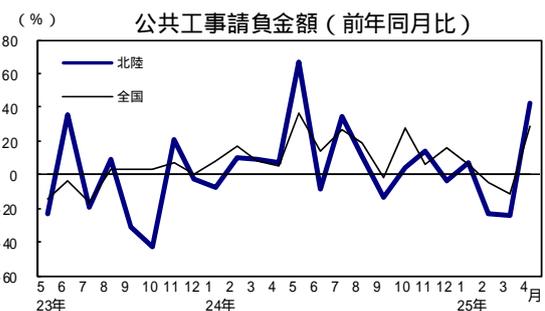
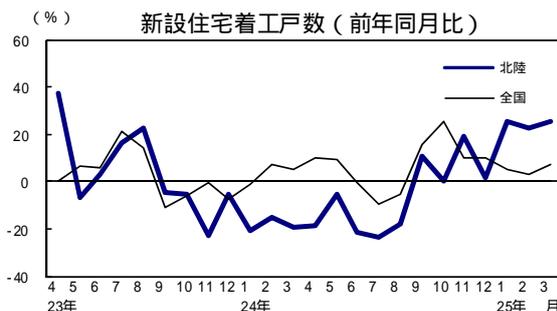
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家が前年を下回ったものの、持家、分譲が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

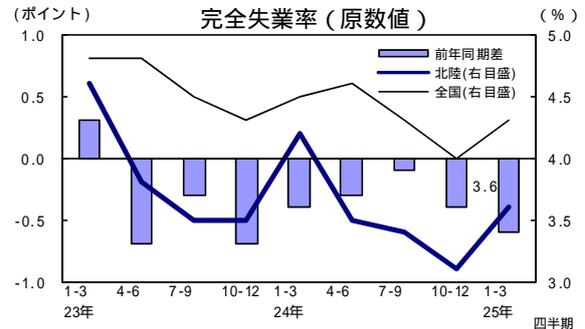
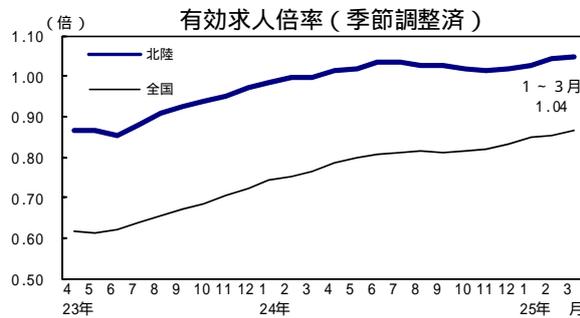


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

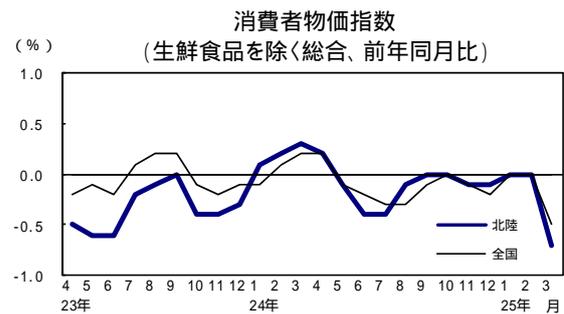
「前月と変わらずIT系の求人の引き合いは増え続けているが、人材不足のためマッチング率が低い(人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年4-6月	7-9月	10-12月	25年1-3月	25年4月
倒産件数 (前年比)	78 27.1	82 13.9	103 47.1	81 6.9	18 35.7
負債総額 (前年比)	143 36.0	397 97.4	1,145 381.8	176 4.2	46 59.2



景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・前年は分譲住宅の売出しを行っても、来場者数は1日2～3組あれば良かったが、今月は2日で10組を越える来場者があったこともある。消費税率引上げ前に決めようと動く人が顕在化し確実に増えてきた(住宅販売会社)

<先行き>

- ・円安の好影響が輸出関連での受注増に良い影響を与えそうである。また、国内の消費が上向くこと、そして、輸入品の価格上昇により、国内生産品との価格差も縮小し、受注環境の改善が期待できる(繊維工業)

